

東日本大震災 愛知民医連支援ニュース

NO. 5 2011. 3. 25 愛知民医連事務局発

愛知医療支援チームは避難所・地域で活動

今週医療支援に宮城に入っているのは第2隊(みなとチーム3人)と第3隊(名南・尾張・北・県連の7人)の計10人です。第3隊から24日の活動状況について報告がありましたので紹介します。

看護師と事務は地域まわり、理学療法士と介護福祉士は避難所まわりを行ないました。

<岩佐看護師(名南)より>

北浜の被災地を民医連としては初めて5組30人で訪問しました。愛知は2組でまわり、岩佐・水出・煤本は片付けをしているお宅を1軒1軒訪ね、のべ6人の方の血圧を測定。健康は大丈夫と言っていますが、血圧が高い人や疲れがたまっている中高年の方がいます。支援の仕方時間もともに生活と精神面のフォローが必要と感じました。

<丸山看護師(尾張)より>

今日は午後から被災地まわりをしました。元商店街の方は片づけで気が立っているからもう少し時間がたってからのほうがいいのではという意見もありました。それも現実だと思いました。しかし、声をかけると忙しい手を止めて丁寧に対応してくださり、特に困ることはないと言われていましたが、近所のどこどこにお年寄りがあると情報をくださり、地域がつながっているのを感じました。介護サービスがなくなり、日中独居で過ごし元気がなくなっている方もいるようです。突然の訪問をする体験がなく不安でしたが、話をして手をあてて笑顔が見られて本当によかったです。看護の基本の「てあ〜て」が今必要なのだと思いました。

<前田理学療法士(名南)より>

24日避難所に向かいケアを行ないました。医師を中心に看護師・事務・薬剤師などでチームを組みました。理学療法士ということで40人くらいの方に声をかけ、簡単な運動指導やマッサージを行ないました。かならず感謝の言葉と労いがかえってくるのが印象に残りました。

避難所での足浴



地域で高齢者に声かけ



地域訪問をする水出さん(北)

